

27日放送のNHKあさイチ(8時15分から)みましたか？

東日本
大震災

南台団地の滑動崩落被害が紹介されました

＜都市部でも起こる 土砂災害から家を守れ！＞



谷 和夫さん

専門家ゲスト：谷和夫さん 横浜国立大学 都市イノベーション研究院教授

横浜国立大学工学研究院システムの創生部門建設システム工学コース

担当科目 地盤地質学 地盤工学 資源と地盤環境 土木工学と社

会（分担）土質力学演習（分担）土質実験（分担）岩盤工学

Rock engineering Advanced theory of earth engineering

先週、日本列島を襲った台風15号。大雨や強い風による被害が出る一方、都市部の住宅街などで土砂災害が起きました。実は土砂災害は、山間部ばかりでなく、都市部の造成住宅地でも起こるおそれがあります。都内だけでも土砂災害を引き起こす可能性がある所は、3,700か所以上にのぼると言われています。今回、住宅街の斜面などに作られた“よう壁”が崩れる危険性があるかどうか、そのチェックポイントや対策が紹介されました。さらに大雨や地震では、斜面の土砂崩れだけでなく、平地でも造成住宅地で地盤が崩れ出すおそれもあります。これを「滑動崩落」といい、どのような場所が危険なのか伝えられました。

よう壁のチェックポイントと対策…造成した住宅地の土手を土砂崩れが起きないようにコンクリートや石などで作った壁をよう壁といいます。番組では、このような壁がちゃんと機能しているか個人で出来るチェックポイントが紹介されました。

・対策ポイント(よう壁の亀裂、排水孔のつまり)

対策ポイント



擁壁の亀裂



排水孔のつまり

■滑動崩落の危険性（ここで南台団地が紹介されました）

山を切り崩して、谷を埋め立てて造られた造成住宅地では、滑動崩落が起こる危険性があるといえます。地盤の補強は、谷に埋め立てられた盛り土全体を補強する必要があり、大規模な工事になります。一度滑動崩落した所は、地盤の補強工事を行わない限り、新たに家は建てることは難しいといわれます。

東海村南台団地 滑動崩落・液状化被災者連絡会のホームページ

<http://www.minamidai.info>

谷教授の話から、なぜ滑動崩落が起こったのか解かったように思います。造成工事の問題点、その後の管理の問題点など見えてきました。私が29日の朝、東海駅頭でこの問題を報告していたとき、日立市の女性の方が、「同じような問題を抱え、自宅に住めないのが、現在、東海村のさわやか荘に緊急入所している。市の対応は“解決は個人で”と述べるだけで大変辛い」と訴えてこられました。南台団地連絡会の方々は、今回の取材と放映を機にアドバイスいただいた谷教授に引き続き、ご協力をいただけたらと考えているとの事です。滑動崩落などによる宅地被害への公的支援、事業者責任を何としても実現しなければと改めて思いました。